

チリ ブドウ輸出に占める新品種のシェアが増加

[FreshPlaza 2024年12月16日](#)

フルタスデチリ*ブドウ委員会の2024-25年度シーズンの第2回輸出見通しは、予想輸出量を6,600万箱に維持し、新品種が当初の推定よりも2%多い総輸出の67%を占めて重要性が著しく高まると予想している。この改定予測では、出荷量は10月の予測よりも0.1%ポイント低いものの前年比で2.2%増加し、合計6,590万箱を超えることを示唆している。(*: チリ果実輸出業者協会(ASOEX)のブランド。対外的に組織名としても使用)

ブドウ委員会のイグナシオ・カバレロ事務局長は、この調整は、主要な輸出市場である米国をはじめとする国際的な消費者の好みに合った品種に焦点を当て、品種を更新するという業界の取り組みを反映していると指摘した。新品種の輸出は4,390万箱以上に達すると予想されており、これは前シーズンより10%多い。対照的に、従来からの品種は10%減少し、合計で2,190万箱強と予想されている。

輸出は、白(緑)ブドウと赤ブドウの新品種がそれぞれ2,110万箱及び1,860万箱を占め、初めて白ブドウの数量が赤ブドウを上回る。黒ブドウの新品種は、410万箱と予想されている。主な新品種は、赤ブドウのキャンディハート、ジャックサルート、アリソン等、緑色ブドウではスイートグローブ、オータムクリスプ、アッラ15、黒ブドウではセーブルシードレス、スイートフェイバーズ、スイートサファイア等である。

地域別では、アタカマ、コキンボ、メロポリターナ及びマウレの各州からの出荷が増加すると予想されており、マウレ州では72%の大幅な増加が見込まれる。対照的に、バルパライソ州とオイギンス州からの輸出は減少すると予想される。北米・中南米市場向けの輸出は微増、アジア・欧州向けは減少が見込まれる。

チリのブドウ委員会は、特にシステムアプローチの下でのパイロット事業が実施されている米国とメキシコで消費を促進し、最初の出荷を最適化することを目的として、販売促進戦略の最終的な検討を行っている。

出典: [simfruit.cl](#)

南アフリカ 2024年のリンゴ、ナシの輸出見込み

[FreshPlaza 2024年12月18日](#)

2024年のリンゴの総輸出量は、前年比11%増の4,842万箱(12.5kg/箱換算)と予測される。ナシの輸出量は前年同期比8%増の2,006万箱(同)と予測される。これは、悪天候によってマイナスの影響を受けた2023年シーズンからの回復を示している。

ふじ品種は前年比2%減少した。ピンクレディーの出荷量は、着色不良の影響で10%減少した。EGVV(西ケープ州のエルギン、グラボウ、ヴィーブーム、ヴィリアスドープの各地域の頭文字)地域とセレス地域の年初来の検査件数は、前シーズンと比較して2%及び38%増加した(セレス地域については、昨年の雹の被害を踏まえるとこれは2022年度の水準に回復したことを示している)。極東・アジア地域は33%の市場シェアを占めており、依然として最大のリンゴの輸出市場である。特にインドでは、年初来のリンゴ輸出量が昨年の190万箱に対し300万箱(前年比55%増)となっている。その他の地域の市場シェアは、アフリカが23%、英国が15%で、中東が12%とこれに続く。年初来のヨーロッパとロシアへの輸出量は、前シーズンに比べて顕著な増加を見せている。

ナシ市場は、全体として引き続き前向きである。ヨーロッパは南アフリカの全輸出量の34%を占め、依然として最大の輸出市場である。前年同期比でも25%増加した。極東アジアと中東はそれぞれ20%と17%の市場シェアである。パッカムズライアンフ品種は収穫量が少なかったほか、春の雨の影響で赤みがかかった斑点やざらつきが生じた。フォレル品種とアバテフェテル品種の出荷量はそれぞれ19%及び26%増加した。夏のナシの輸出も昨年よりも好調で、ローズマリー、チーキー、セリーナ、コミスの各品種が大幅に増加した。

(以下、アンズについて省略)

南アフリカ園芸生産者協会(Hortgro)のレポート全文は[こちら](#)